

④歴史的遺産を活かしたさらなる取り組み「旧東海道案内サイン計画/成安造形大」

【2017年3月30日中活協議会総会資料】

1. 概要と経過

- 大津市と草津市の都市計画課が共同で取り組む景観プロジェクト
- びわこ大津草津景観推進協議会が成安造形大学地域連携センターに旧東海道案内サインを委託
- 東海道に統一したサインを計画

平成28年6月2日	大津市都市計画課より事前打ち合わせ
6月14日	成安造形大学でのファーストプレゼンの対話に参加
7月26日	成安造形大学での打合せに参加
8月29日	成安造形大学での報告会に参加

びわこ大津草津景観推進協議会

「旧東海道沿道の連続性のある景観形成」に向けた取り組み

【概要】

- 大津・草津の景観連携事項である「旧東海道沿道の連続性のある景観形成」に関して、景観を構成する重要な要素のひとつとして屋外広告物(看板)に着目する。
- 旧東海道の歴史やまちの魅力を発信する両市統一デザインを充実させることにより、沿道景観の連続性・統一性を目指す。
- デザイン及び看板の作成並びに設置方法など、両市以外に大学や民間団体との連携し、調査・研究を行っていく。

活字

発行

発行

2016年(平成28年)5月31日 火曜日

旧東海道案内板 景観生かすぞ

成安造形大と大津・草津両市 デザインや設置場所検討

旧東海道にある石碑の大きさを調べる参加者
(大津市西の庄)

9キロ歩き現地調査

旧東海道にはすでに観光案内板などがあるが、歩く人のために分かりやすい案内を設置しようと、3者が5月はじめにプロジェクトを立ち上げた。8月末までにデザインを決め、その後、設置時期を検討する。現地調査は24日に行い、市職員や学生ら10人が京都市山科区の京阪四宮駅から大津市粟津町の石山駅まで約9キロを歩いた。参加者は古い石碑を調べたり、分かれ道など歩行者が迷いやすい場所を確認したりした。参加者は「景観に合った色を使い、曲がり角には看板が必要」などと話しながら、熱心に調査していた。メンバーは今後、石山駅から草津市の草津宿本陣までの約10キロを調査し、デザイン作成に取り掛かる。

同大学助教の石川亮さん(45)は「歩く旧東海道の歴史や文化に気が付く。歩行者の目線で景観を考えて、よりよい看板づくりをしたい」と話した。(西田昌平)

大津市から草津市にかけての旧東海道に道案内を立てるプロジェクトが、このほどスタートした。歴史的景観を保全し、まちの魅力を高めようと、両市と成安造形大(大津市)が始めた。案内板のデザインや設置場所を検討するため、このほど関係者が現地を調査した。

10 新たな発見の連続でした

大

津市と草津市の都市計画課が連携して隣り合う市同士で景観問題に取り組むプロジェクト。古の時代から続く東海道はかつての主要インフラではなくなったが、江戸時代の風情がとどころ残っています。今日も暮らしの重要な道であり両市を貫いているこの東海道に、サイン計画で統一したデザインを提案する企画を大津市から依頼されました。それは良好な景観を持続し住民の意識の高まりや旅行く人を迎える意図があります。これまでに都市計画ワークショップやサイン計画デザインの経験がある学生が集り、現地調査からスタートしました。

地域住民と対話し、両市職員や有識者を前にプレゼンテーションを行うなど町の問題と直面しながらサイン計画に取り組みました。サイン計画デザインを提案することを通して、今日の交通や景観について、また歴史や地域社会について学ぶ経験ができました。



→ ロゴマークデザイン案



↑ 軒先用デザイン案

↑ 板形状デザイン案

voice

学生の声

卒業広報委員のサイン計画の経験やデザイン公募での受賞経験を生かして、現実の都市空間にチャレンジしたいと思い、取り組みさせて頂く事になりました。大津から草津の街道沿いのサイン計画は現実の都市空間においての計画で興味深く、コミュニケーションではなく実際の仕事という意識になり自身の気持ちも高まりました。クライアントとデザイナーという立ち位置を意識し、自身の価値観をデザインに出すのではなく様々な立場を理解しデザインに落とし込むことが本当の仕事だと感じることが出来たと思います。



寺田 駿志

てらだ しゅんじ

メディアデザイン領域

グラフィックデザインコース4年(当時)

鳥取県立鳥取中央育英高卒



↑ 漢字表記デザイン案

